

助成・援助・表彰を通じて情報通信の学術研究の活発化に資する

情報通信の社会経済における重要性が高まる

武内信博・電気通信普及財団理事長に聞く

財団賞受賞者のコミュニティづくりも取り組む

受賞者を対象に第1回オンライン・イベントを28日開催



武内信博財団理事長

公益財団法人電気通信普及財団は1984年の発足以来、36年にわたり、情報通信が我が国社会経済の発展の基礎となるという視点から、情報通信に関する研究調査、普及・利用促進活動を支援してきた。具体的には、情報通信にかかわる人文科学・社会科学、技術及び両分野にわたる研究の3分野の学術的な研究調査への助成、知の交流を促進する講義開設やシンポジウム開催等7つのカテゴリーでの助成・援助など、幅広く公募型で展開してきた。また、電気通信普及財団賞を通じて、情報通信に関する人文科学・社会科学あるいはシステム技術の優れた著作、論文を表彰してきた。武内信博理事長に2021年度の新規施策などを聞いた。

20年度の振り返りと21年度の展望

学術研究出版助成の始動

「学術研究出版助成」が、7件の申込みがあることになりました。採年1月に信山社より出版の採択を予定していきま

「2020年度より新たな。なかなか幅広い応募に学術研究出版助成を。情報通信開始しました。3件ほど。採年1月に信山社より出版の採択を予定していきま

著者	書名	出版予定
総務省情報通信政策研究所 特別研究員 武智 健二	通信法制七〇年史 (信山社)	2021年1月出版
早稲田大学 政治経済学術院 非常勤講師 樋口 喜昭	日本における放送のローカリティ	2021年7月
国土館大学 経営学部・経営学科 准教授 税所 哲郎	アジアの情報通信産業と産業クラスター	2021年8月
慶應義塾大学 理工学部情報工学科 教授 山中 直明	ビヨンド 5G が描く未来——2030年の日本で実現すべきこと (仮)	2022年2月

電気通信財団賞の応募件数が史上最多

「今年度の電気通信普及財団賞は応募件数が前年度の前年度の17件を大幅に上回りました。3月26日に授賞式も大幅に増え、ハイブリッドの電気通信普及財団賞贈呈式を行いました。新型コロナウイルス対策に万全を期すというこ

「電気通信普及財団賞については、2020年度から賞金をほぼ倍増することに、応募動員を進めました。その結果、応募件数は180件と開始以来過去最多となりました。また、

「電気通信普及財団賞については、2020年度から賞金をほぼ倍増することに、応募動員を進めました。その結果、応募件数は180件と開始以来過去最多となりました。また、

研究者のステップアップと電気通信普及財団の助成・援助・表彰

研究者のステップ	助成・援助・表彰	対象
若手研究者	海外渡航旅費援助	海外の学会で研究成果を発表
	電気通信普及財団学生賞	大学院生(博士前期・後期)時代に執筆の論文
研究活動の向上	研究調査助成	自らが主導して行う専門研究
	長期海外研究援助	海外の大学院等の研究室における研究の機会
	学術研究出版助成	研究成果を学術書として書籍化
	電気通信普及財団賞	優れた著作、研究論文
研究業績の展開と継承	シンポジウム開催援助	学会の中心メンバーとして、国際会議を主催
	特別講義開設援助	大学における講義という姿での研究成果の普及・定着や継承

「G」に至るまで、意義深い書籍の出版を助成でき、採年1月に信山社より出版の採択を予定していきま

情報通信の重要性が改めて認識された一年

「2020年度はコロナ禍の影響で、情報通信が大事

新型コロナウイルス禍の影響と復調の兆し

「2020年度の学術研究分野での新型コロナウイルス感染症拡大の影響を、ハイブリッド開催など、学術的な国際会議において、従来よりも情報通信を活用する方式で復調している結果ではないかと思っています。

「このような動きを見ていると、私どもの助成援助の対象となる研究者の活動は、2021年度においては、コロナ対策の進展とコロナに対応したいという工夫によって、徐々に復調してきているのではないかと期待しております。当財団としては、現存の助成・援助も休止することなく、情報通信に関する研究者の学術研究活動の支えたいと考えております。」

21年度における新規の取り組み

「テレコム学際研究」を新設

「テレコム学際研究」と「テレコム学際研究学生賞」を新設する

「従前より、研究調査助成や学術研究出版助成において、人文科学・社会科学分野と技術分野の両分野にわたる研究という申込区分を設定して、情報通信に関する学際的な研究チーム設定やアプローチの研究に対する助成を実施してきました。やはり、情報通信技術が社会のあらゆる分野に浸透していくことを反映し

財団賞受賞者のコミュニティづくりを始動

「財団賞受賞者のコミュニティづくりも始めています。当財団は36年歴史を積み重ねてきて、

「研究者の方々が交流する」とは、新たな発見とかアイデアを得ることや、先ほ

「この場を設けることができず。手始めとして、財団賞受賞者を対象とするオンライン・イベントを開催して、これを毎年続けていきたいと考えています。また、

「具体的には、本年5月28日に、第1回を開催する予定です。電気通信普及財団賞テレコムシステム技術普及財団賞受賞者であり、当財団の審査委員で

「受賞という共通の接点を知見をもって、情報通信に関する研究が活発化していくことを期待しています。」

公益財団法人電気通信普及財団 2021年度 表彰・助成・援助

事業名称	概要	金額
電気通信普及財団賞	情報通信に関する優れた研究論文・著作等を表彰 ①テレコム人文科学賞 ②テレコムシステム技術賞 ③テレコム学際研究賞 ④テレコム人文科学学生賞 ⑤テレコムシステム技術学生賞 ⑥テレコム学際研究学生賞	①～③ 入賞:100万円(最大5件)、奨励賞:50万円(数件) ④～⑥ 入賞:50万円、奨励賞:30万円
研究調査助成	情報通信の利用を促進し情報社会の進展に寄与するために行われる研究調査 ①人文科学・社会科学分野 ②技術分野 ③両分野にわたる研究	1件当たり300万円以下
学術研究出版助成	情報通信に關係する学術研究成果の書籍出版を助成する。大学、高等専門学校や学術研究機関に所属する研究者を対象。	1件あたり最大200万円。2021年度総額800万円を予定
特別講義開設援助	情報通信の普及、振興、発展に資するため、大学又は大学院において、情報通信に関する特別講義(人文・社会科学分野及び技術分野)を新たに開設するための経費を援助する。	援助予定講義数5件程度(1件当たり1年100万円以下)
長期海外研究援助	援助対象:情報通信に関する研究を行う研究者が、海外で長期間、優れた研究活動を実施するための経費の一部を援助する。	援助金最大300万円(援助対象費用:①滞在費の一部 ②往復海外渡航費2名程度)
海外渡航旅費援助(通年募集)	情報通信に関する研究を行う研究者が、海外で開催される国際会議などで研究発表を行うための渡航費用の一部を援助する。	地域別 援助金額上限を設定 11万円～29万円。オンライン開催の場合は、会議登録費用を援助。
シンポジウム・セミナー等開催援助(学術分野)	援助対象:情報通信の研究、普及・振興に関して学術的に寄与する会議等(学術)に対する援助	数件程度(1件当たり100万円以下)
シンポジウム・セミナー等開催援助(社会貢献分野)	援助対象:情報通信の普及、利活用の振興に社会的に寄与するシンポジウム・セミナーに対する援助	数件程度(1件当たり100万円以下)
国際交流人材育成援助	大学や高等専門学校による、情報通信分野における開発途上国の人材育成を促進する活動プロジェクトに対する援助	数件程度(1件当たり200万円以下)
ネット社会課題対応援助	大学や高等専門学校による情報社会の進展に伴い生じている社会的な課題に取り組む活動プロジェクト等に対する援助	①と②を合わせて数件程度(1件当たり200万円以下)

電気通信普及財団 創設以来36年の助成・援助・表彰

項目	件数	金額(億円)
全体	9,723	89.7
電気通信普及財団賞	800	2.4
研究調査助成	3,187	37.7
海外渡航旅費援助	3,104	8.2
シンポジウム開催援助	632	8.0
特別講義開設援助	333	6.5
長期海外研究	122	4.0
国際交流人材育成	14	0.2
ネット社会課題対応援助	9	0.2
学術研究出版助成	4	0.1

「具体的には、本年5月28日に、第1回を開催する予定です。電気通信普及財団賞テレコムシステム技術普及財団賞受賞者であり、当財団の審査委員で

「具体的には、本年5月28日に、第1回を開催する予定です。電気通信普及財団賞テレコムシステム技術普及財団賞受賞者であり、当財団の審査委員で

「具体的には、本年5月28日に、第1回を開催する予定です。電気通信普及財団賞テレコムシステム技術普及財団賞受賞者であり、当財団の審査委員で